

目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
<p>生徒指導</p> <p>生徒が主体となり、学校をよりよくするための活動を見つけ出す力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「どんな学校にしていきたいか」生徒が主体となり企画・実施できる場を設定できるように、支援する。その方策として、「毎月1回の生徒集会を開催する」「自校の方向性を考える集会を企画する」「校則についての見直しを行う」「終礼時で帯タイムを実施し、「生徒同士の繋がりを深める活動を行う場面を設定する」「学級活動の充実を図り、教室内での居場所づくりエンカウンターを取り入れる」といった実践に取り組んでいく。 	<p>生徒集会の場を利用して、自校の現状や課題と捉えていることを、話し合いをし、全校生徒に周知・徹底できるように工夫している。集会の最後に歌詞を活性化するために「校歌」を大切にしたいと考えた。その結果大きな声で歌うことのできる生徒が増えているのが現状であるため、継続していきたい。集会では、サミット実行委員が中心となり、「帯タイムで行っているアンケート」について、アンケートを取ったところ、取組によりクラスメイトと話すようになったと回答した生徒が8割程度という結果であった。しかしその一方で、効果を感じないと考える生徒もいるため、今後も生徒が活かに活動していける内容を検討していきたい。</p> <p>「校則の見直し」については、生徒会執行部に「どんな学校にしていきたいか」という問いを投げかけているところである。</p>	
<p>特別支援教育</p> <p>特別な支援を必要とする生徒に適切な支援を行うことがで きる体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育校内委員会を計画的に開催し、支援体制の検討とその情報の共有を図る。 学年会の場を活用して支援を必要とする生徒の状況把握に努めるとともに、具体的な支援策を検討・実践し、職員会議の場で共通理解を図る。 必要に応じて、専門機関や専門家につないで、支援の方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続き「通常の学級在籍生徒の「個別の教育支援計画」に記載されている内容の把握や、該当生徒の状況把握を、コーディネーターが行うことに時間がかかり、校内委員会の開催が遅れたが、8月の委員会の開催において、今年度の支援体制について必要な事項を協議し確認できたので、今後はその体制をさらに整えていくことに注力する。 ・通常学級に在籍する生徒について、今年度新たに「個別の教育支援計画」を作成していく生徒の検討を行い、個人懇談会において保護者の意向を聞くことができた。 ・特別支援教育に関わる情報を掌握できるように、学年主任や学年会との連携をさらに図っていく。 	
<p>道徳教育</p> <p>「考え議論する道徳」の教育実践の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローテーション道徳を実施し、教材への指導力を高める。 学級や学年の枠を超えた、縦割り道徳をおこなうことで、縦のつながりを深める。 ・家族道徳によって、保護者の考えを聴き、多面的・多角的に思考を深める。 ・「心のテーマ」を活用し、豊かな道徳性をはぐくむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、取組を進捗させていくことができた。 ・講師を招聘しての師範授業、校内研修を行った。その後、以下の3点について共通実践を進めていくことを確認することができた。 ①「拡散」と「収束」を意識した発問を行う。 ②ICTを毎時使うことを心がける。 ③ICTの字型の配置で授業を行う。 ・心のテーマを活用し、毎月の生徒集会で呼びかけを行うことで、全校で道徳的価値について考える場面を設けることができた。 	
<p>キャリア教育</p> <p>働くことの意味を理解し、将来を見通して進路を選択する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や総合的な学習の時間を中核として、年間計画に基づいた指導を行う。 ・玉成会と連携し、地域や卒業生などの人材を招聘し、体験的活動や啓発的活動を効果的に行う。 ・生徒と保護者の意思統一のもと、適切な進路選択の助言に務める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて指導を進めていく。 ・玉成会と連携して3年生「ようこそ先輩」を実施した。1年生は3学期に“働く人に学ぶ会”を予定している。2年生の職場体験が中止となったが、2学期に企業訪問を行い、働くことについて学ぶ予定である。 ・個人懇談会や個別の家庭連絡の際に保護者の意向を確認することに加え、学校からの便り、3年生では進路に関する通知を通して、親子間での進路に関する会話を促すことができた。 	
<p>保健健康教育</p> <p>身体や健康に対しての意識を高め、的確に判断し主体的に行動する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナに向けて、状況に応じた指導を実施する。 ・ミニ健康指導を年間3回実施する。 ・生徒保健委員会による保健検定を実施する。 ・学校保健委員会を、生徒や保護者を交えて開催する。 ・地場産物や旬の食材を紹介することに興味を引き出し、食に関する指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナの指導においては、換気と手指消毒の指導を引き続き行っている。 ・ミニ健康指導と保健検定は1学期の間に1回実施した。 ・学校保健委員会の内容については、8月に保護者も交えた上で検討していく。 ・給食委員会の取組として、地場産物や旬の食材を紹介する動画を作成し、食に関する興味付けの機会を全校に向けて発信することができた。 	
<p>生徒会活動</p> <p>生徒主体の活動を通して、生徒の自治能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部や各委員会同士の間を連携し、生徒会活動の活性化を図る。また、その活動の様子を掲示等で全校生徒と共有できるようにする。 ・日頃から学年を越えた統制の活動を設ける。 ・生徒集会では、前年度以上に生徒が活躍できる場を設け、生徒が達成感を感じることでできるようにする。 ・目安箱や生徒アンケート、小中学生サミットなどを通して、全校生徒の意見を取り入れた主体的な活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は生徒会掲示板に各委員会の活動の振り返りを毎月掲示し、活動の見える化を図れるように工夫している。 ・生徒会執行部と環境委員会が協力して取り組んだ清掃活動（=プロジェクト）や生活委員との協働による心のテーマに係わる取組をおおして、生徒会執行部と各委員会との関係をつなぐことができている。 ・生徒集会を毎月実施し、小中学生サミットや心のテーマについて、全校生徒のアンケート結果などをもとにして、生徒会の現状について話題や問題を提起することができている。2学期は生徒集会のみならず、様々な場面で生徒の意見をもとにした話し合いや活動を進めていく。 ・各委員会で統制りりの活動を増やすことにより、会の活性化を図ることにつながっている。（放送委員会の放送当番、生活委員会の挨拶当番など） 	
<p>学校関係者評価</p>		